教育文化センター開設

『実技と研修のために 趣味と教養のために』

教室	講座内容	担当講師	期間	曜日・時間
音樂	混成合唱の練習、歌曲、民謡等、音楽鑑賞、レコード音楽会	溝内忠彦氏	第一地区四月第二、三週と終了する	毎週水曜日 午後七時半～九時半
生花	盛花、投入、流儀花（挿花・変化式用）新花（新興盛花の見方、扱方）	中島章子氏	全前	毎週火曜日 時間全前
習字	智永千字文、草書、直史等	長谷川三七雄氏	全前	毎週火曜日 時間全前
卓球	基本ルール、手法、練習、試合、機能試合等	畑中茂氏	全前	毎週金曜日 時間全前
珠算	珠算能力検定試験、各級受検の便を図り、練習指導を行う	京都盛工公論所 珠算振興会 佐々木一男氏	第一期四月第一週二回	毎週十時日 時間全前 但梅雨後は週二回とする
オラジオ組立	初心者のための、五球スーパー組立の実習を中心として理論、工作実習等を行う	岡部太郎氏	第一期四月一七日～十四回で終了	毎週月曜日 時間全前
自動車免許	自動車構造、交通法規、実習要領等、免許状取得についての指導を行う	調整未定	全前	毎週木曜日 時間全前
寫真	初心者のための撮影、現像、焼付、引伸、等の実技を指導し撮影会や展示会等を行う	ASS光房 上田実氏	第一期四月一八日～十八回で終了	毎週水曜日 時間全前
手藝	第一期は人形教室を開き「くるみ人形」其の他の制作、染色指導を行う	人形研究会 講師（未定）	第一期四月一七日～十二回で終了	毎週十曜日 時間全前
料理	実践的な家庭料理について、新しい調理、栄養と味覚など、学習と練習を開く。当方で準備する場合と、料理学校で学習する場合とがある。	京都大和料理学校 田中勝一氏	第一期四月一七日で終了	別に定める
短歌	初心者のための作歌、鑑賞についての手ほどき指導、歌会等を催す	京都歌人協会 井ノ本勇氏		随時
俳句	初心者のための俳句の作り方、鑑賞などの手ほどき、吟行句等を催す	丸山茨月氏 山本楓人氏		随時
謡曲	会員の希望によって主題、方法等を選択する	専門の指導講師		随時
兩親教室	子どもの家庭教育を主題に、指導講師を中心として話し合う	全前		随時
歌謡		専門の指導講師	定例月一回（別に教室に依る特別講座を開く）	随時
土曜教室	時事、政治、経済の問題や、一般文化、趣味などについての講演、映画鑑賞を行う	全前	不定期	随時
映画教室	映画の内容を主題に指導講師を中心として話し合う	全前	毎月一回	随時

申込要項

○申込 四月二十日までに町教育委員会事務局へ申込書又は葉書でお申込下さい。受講料は不要ですが実習に要する実費は各自の負担です。特に指定する以外は町教委事務局（公会堂二階）教室です。（電話二一八・一八番）

○経費 ○場所

みなさまの御参加をお待ちしています。

向日町教育委員会

社会教育を語る

—教育委員長・教育長の対談から—

社会教育についての抱負を、辻山教育委員長と中山教育長に對談してもらったその抄録です。——

野村（社会教育指導主事）社会教育計画の、今年度の運営には いるわけですが、その抱負と実践についての、お考えをきかせていただきたいと思いますが、—

辻山 予算もきまったので、今年はいくらかやれると思います。しかし緊急な事業などがあって、やむを得ず、既定予算をおさえなければならなかったのは残念です。

中山 町にはどうしても、公民館的な活動の母胎がいるわけで、社会教育会館といったような機関がぜひ必要なのです。そして教育文化的なサーヴスの役目を果たすものですね。だれでも気やすく利用できるようにして。

辻山 将来といわず、できるだけ早くその施設を作って、そこでは、いつでも映画や図書が見られ、いろいろな講座や教室などが開放されていて、気やすく来られるような会館です。

野村 その点、会館（公民館）といったもの）はないのですが、事務局のこの教室でできる範囲につかって、ことしは十六の講座教室を開こうというのです。教育文化センターとしての役割は、これでも相当やれると思います。しっかりやりたいと準備しているところです。

中山 こんどの教室講座は、全く新しい企画で、町民の方々に十分利用してほしいと思います。向日町は理想的な住宅地として、今後発展するでしょうが、外の都量的な面としての、文化的な色彩をもたせて、このような施設の活動によって、婦人の学習の機会を提供することが、緊急の一つの大切なことと思うのです。

辻山 岡崎町長も「社会教育だけは」と張いっており、大変深かい関心をもっています。町議会でも熱力的で発展を期待しているのは、うれしいことです。実講をあげて社会教育の充穏をかためていけば、将来の会館建設は遠からず実現するといえます。

野村 これからは委員会の教育講座と併行して、婦人学級、青年学級の「学級活動」に十分努力していきたいと思います。この趣味を重視して、こんどの教室講座も広い視野から、教養、実技、趣味、などをとりいれたのです。生活をうるおいと知性で高めていくことや、実技を習得していくことは、個人の生活をどのように深めていくかという大切な問題だと思うのです。委員会はそのような場と機会を提供する役目をもっていると思うのです。

中山 青少年の補導も大切な問題です。このために、青少年の指導を考えてやることが必要です。学校内での訓練指導だけではだめです。学習や遊び（体育的な）の機会を設備と指導者を考えてやれば、よい指導ができるのですが。

辻山 どうしても専任の指導者と設備をしてやるようにしなければいけないことです。根本的に考えてみる必要がありますね。

中山 そうです。学校を基礎した親の生活指導ですね。

野村 これは施設としての場と指導者の問題が前提としてとりあげられなければならないものです。しかし親というか、おとなの教育的な配慮が必要なわけで、子どものしつけ教育についての正しい眼と指導の二つ（子どもの扱い方）を理解する必要があると思うのです。この間もある部落のPTA地域委員のあつせんで、会員の話合いをしました。「子どもを見る眼とその導き方」を主題にした話合いでしたが、この頃の子どもはどのように考えているか、どのように導いてやるか、ということが、中心問題でした。社会教育もこうして部落にはいりこんで、親たちと話合うことが大切なしごとだと思っております。

中山 社会教育は、そうした部落や小さな集りでの話合い学習がすすめられるように、援助してあげることが、いちばん肝要なことですね。

辻山 社会教育はまことにしごとが広く、要求も多いことですから、社会教育担当者も専任者が二、三人は必要です。文化的なしごとや教育的なしごとは、長い目でみていくことが必要で、これは委員会のしごとのうちでも、大切な問題だと思います。

中山 住みよい文化的な、しかも伝統が新しく高められた、向日町の発展のために、教育文化的なセンターの活動が、小さい芽をふいてきたことは、ようこばしいことで困難だが、ことしの拡充企画を十分にすすめたいものです。

野村 町民の方々への教育文化的なサーヴスにお役に立てたらと思います。

母親教室、鯵坂教授のお話は、しみじみと愛情の在り方を考えさせてくれました。ひとときの静思に、お母さん方の真けんなまなざしです。——

愛情について

鯵坂 二夫

向陽PTAと教委によって開かれた両親教室での、鯵坂教授の講演の一節です。抄録の文責は私（野村主事）にあることをおことわりいたします。

愛には単なる本能的な愛があります。また美しいとか、良いとかなどの価値を愛する愛があります。つぎに観体的な人を目的とした、人格的に結ばれる愛があります。

真の愛の姿は、価値を愛するのでなく、人そのものを対照としたものなのです。愛は惜しみなく奪うのでなく、己を相手に与える愛なのです。相手の幸福を願ってやる、人格と人格とのふれあいです。したがって、人の立場を尊重することが大切なことといえるわけです。

家庭生活の中心は夫婦にあります。夫婦を主体としての家族で見つめていき考えていくのです。そこに個人の成長があるのです。それを、みまもってやるのが愛の姿ともいえるものなのです。

最近の戸として、道徳教育がやかましくいわれています。道徳教育は何も学校だけがやるものではなく、家庭と学校と社会の三本の柱が背おうべきものです。道徳教育を学校で特別の時間やったからといって、易ちがえるようにはならないのです。しかし学校でやることには、私は賛成です。（小学校の低学年では、特別の時間をとらないで、生活の指導をとおしてと）いった考えはあるのですが。

道徳教育をやるからといって、背景からの修身教育であってはなりません。恐怖政治が、道徳教育ではないのです。生活の仕方というか、社会的な人間として子どもの能力でふみしめていく道程であるのです。

このような新しい道徳は、教育の方法を考えることが必要です。おとなはみにくい面があるのです。こうせよ、ああせよと理屈をいつでもはじまらないのです。押しつけるのではなくて、一体になって考えてやる、何を与えるかではなくて、子どもが求めて学んでいく、それを眼合ってやることが大切なのです。若い人たちもなつくよろこび親の広場でものを考え合うことが根本なのです。

しつけ教育は、かくて知恵を育てていきながら、情緒的なもの（美しい絵とか、時、物語、音楽、自然の姿など）を与えてふれあった生活を深いてやりたいものです。

子どもは自分を主張します。理屈をいうのではないのです。これこそ、子どもが自分で立つていく姿なのです。子どもの自分の主張をよく理解してやることが大切で、この根底は親の温かな理解的な愛情によるものでなくてはならないのです。

（京大教授）

婦人はどう考えているか

青年はどう考えているか（その三）

家庭調査から、その三のレポートをおくります。婦人と青年の、おなじ悩みを、おたがいに、どう解決していったらよいでしょうか。

婦 人はどう考えているか、についての婦人の悩みには、自身の問題、近隣の問題もかなりあるようですが、なんといっても家庭の問題にその焦点がある ようです。そのうちでも家庭が円満でありたい、子どもがよくなってくれたらという二つの願いが、この多くの%をしめております。

「あなたは家庭生活で、とくに悩を記っていられるのは、どんなことですか」に対して「子どもの教育、しつけのこと」が四八%をしめております。子どもの教育やしつけの問題が、このような%をしめていることは、婦人（母としての）の子どもへの願い、悩み、よろこびがどんなに切実なものであるかをみることができます。親子関係の円満ということの中にもしつけ教育の分量が二七%をしめておりますが、家庭生活の円満の中に、子どもと親との関係がどんなに深かい問題をもっているかを知ることができます。

青 年はどう考えているか、についての青年の問題が自身のことか婦人と同じように、自分自身の問題、友人や近隣の問題にも悩みはあるようですが、とくにかなりの多くの%をしめているのは「あなたは、どんなことに悩んだり困ったりしていますか」に対して「家の仕事や自分の仕事に関すること」が三三%、「親や相父母と意見が相違すること」が三三%と多いです。五六%までが「家」の問題と深かい関係があるっていることが考えられます。さらに親との関係について、追求してみると「あなたは、どんなことについて親とうちと行て話合いたいと思いますか」について、「仕事や家庭の工夫改良について」が一七%、「自分の考えや思想について」が一六%で、自分の考えを親しく話合うことが望まれています。

親 と子、の関係において、婦人の考えをきいてみると「家庭で一番たのしい時は、どんなときですか」に対して、「子どもがよくきかわけてやってくれるとき」が二七%あり、これも子どもについての願いの大きいものといえます。しかもその内容は、子どものしつけに困っている、反抗する、わがままである、いうことをきかないで理屈をいうなどと子どもの性質行動についての問題が大部分を示めております。

「これには、子どもとの気持や感情がそのわだかまりの原因となっていること、考え方の相違が対立していること、親が自分の考えをおしつけたり、子どもの服飾のみをゆめたりする態度などに、その理由があるようです。親と子の問題の根本的な矛盾の相違にあるといっても過言ではないようです。

子 と親の関係について、これを見ると、親との考えのずれに悩んでいる、ということがいえるようです。親のいうことだからといって、子どもにおしつけることは、青年にとっていやなことです。しかし、まだ親の権威をふるまって、考えをおしつけたり強わせたりすることがないとはいえないようです。

「私は高校三年生ですが、少しおそく学校から帰ってくると、なにしてたんや、おそうまで、男の人と遊んでたんやろ、といわれます。もっと信じてほしいと思います」（十七才女）「親のうちでは父が自分の考えとちがうと、ほか、子どもにわかるか、といって叱ります。もう親は子どもではないのです。（十九才男）「私は母がもっと自分の考えをもってくれたらと思います。父の考えや私の考えについて、いつもだまっていて、父の考えに従うのです」（二十才男）「私はつとめにでていますが、つとめの関係でおそくなります。おそく帰ると、いつでもふきげんです。つとめのつらいことをもっと家の人が知ってくれたらと思います。（二十一才女）これは、悩みについての問題の一例ですが、家庭ではそれぞれにむずかしい問題があるようです。

「あなたは、親の考えやいわれることで、不能に思うことがあったとき、どのような態度をとりますか」の問に対して、「自分の考えをいって、たおしてやろう」というのが四六%で、多くは話合いたいと願っています。「自分の思うようにおりする」一四%、「まこうなおりがたってやる」一四%、「いってもなおりがたってやる」一〇%、これは青年（子の）保持の傾向に物語っているようです。